（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和７年度　学校自己評価システムシート（県立新座柳瀬高等学校）

目指す学校像	人と社会と未来に繋がり，次世代を生き抜く力を育成する学校

重点目標	1　基礎学力の確かな定着と自ら考え自ら実践する力を育成する。 2　様々な教育活動を通じて主体的に行動できる心豊かな人間力を育むとともに，生徒のキャリア形成を支援する。 3　多様化する社会を見据え，地域等と連携を深め，社会貢献できる人財を育成する。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価懇話会を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	５　名
	生徒	７　名
	事務局（教職員）	６　名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策，方策の評価指標」を設定。

学校自己評価

年度目標

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	年度評価（令和８年１月１６日　現在） 評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 落ち着いた学校の雰囲気のもと積極的に学習に取り組む生徒が増え，成績優良者の割合が大幅に増加した。 【課題】 ＩＣＴを効果的に活用し，生徒一人一人の能力や特性に応じた学びと生徒同士が教え合い学び合う協働的な学びをどう推進するか。	ＩＣＴを活用した学習環境を整備するとともに，主体的に学習に取り組む生徒を増やす。	・教員間の学び合う意識を高め，協働的な授業研究や意見交換を通して日常的な授業改善と工夫を促進する。 ・ＤＸハイスクール推進事業を通じ，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。	・授業に積極的に取り組んでいると回答した生徒の割合 ・成績優良者の割合 ・学習支援アプリ活用状況	・授業を積極的に取り組んでいる生徒 81.9%(83.4) ・授業の内容がわかりやすいと答えた生徒 86.7% ・学校生活に満足している生徒 81.5% ・成績優良者 28.8%(26.4) ・タブレット利用状況 72.6% ・ＤＸ講演会を３回実施した。	A	授業への積極的な参加姿勢が定着し、主体的に学習に取り組む生徒が増加した結果、成績優良者の割合が更に向上した。また、資格取得を積極的に推奨したことで多くの生徒が意欲的に挑戦し、多数の合格者を輩出した。次年度はタブレットの効果的な活用に向けた研修を実施し、スキルアップを図る必要がある。
		資格取得等に励む生徒を支援し，上位級に挑戦する意欲を育てる。	・個別指導や補講などを充実し，生徒の資格取得への意欲を高める。	・資格取得等への受験者数や合格者数の状況	・英検(38)，漢検(10)，数検(5)，簿記(80)，食物(60)，被服(16)，保育(72)，Ｐ検(85)に挑戦した。 ・英検(8)，漢検(5)，数検(5)で準２級以上の難関試験に合格した。		
2	【現状】 道徳教育の充実により，自己肯定感が高まり，新しいことに挑戦したり，困難な状況にも前向きに取り組んだりできる生徒が多くなってきた。 【課題】 自身の良いところや強みを認識し，他者の評価に左右されず，自己の価値を尊重する気持ちを深め，高校卒業後の進路を見据え取り組ませることができるか。	学校行事や部活動などに積極的に取り組む生徒を育成する。	・表彰などの機会と道徳教育研究推進事業など活用し，自己効力感や自己肯定感を高める指導を推進する。 ・生徒会活動などを通して生徒の主体性を育み，多様な他者を尊重する態度を育成する。	・表彰された生徒の状況 ・生徒会活動の状況 ・生徒の Well-Being の状況	・表彰された生徒 19 件 93 名(85 名) ・生徒会生徒が大和田公民館、東北公民館で行われたスマホ講座の運営ボランティアに参加した。 ・道徳教育講演会を３回、職員研修会を３回実施した。 ・生徒の Well-Being が高まった。	A	道徳教育推進モデル校として公開研究授業や講演会を積極的に実施した結果、生徒の Well-Being が高まり、自己肯定感の醸成に繋がった。次年度は高まった自己肯定感を自信に変え、生徒自身が企画・運営する機会を拡充することで、主体的な行動力を強化していく。また、進路行事内容を改善し、未決定者への早期支援を徹底していく。
		進路行事を充実させ，生徒一人一人が主体的に進路選択を行い，具体的な進路実現に向けた行動へと繋げる。	・進路行事などを通して生徒の進路意識を高め，主体的な進路選択と目標設定を促し，充実した学校生活を送れるようにする。	・進路行事に対する意識 ・進路決定状況	・進路行事の満足度 93.2%(95.7) ・ＰＴＡによる模擬面接指導を２回実施。(8,10 月) ・進路決定 94.6%(大短 37.5%，専門 44.6%，就職公務員 12.5%)		
3	【現状】 活発な地域交流と積極的な情報発信により，地域や保護者などから一定の理解と協力を得られたことで，安定した生徒募集活動が展開できている。 【課題】 地域や保護者との連携を強化することで，新たな取組や特色を発掘し，本校のブランドイメージ向上に繋げられるか。	中学生，地域，保護者のニーズを踏まえ，本校の魅力を効果的に伝える情報発信戦略を展開する。	・学校説明会に生徒が主体的に関わり，本校の魅力発信を充実させる。 ・部活動などによる情報発信を充実させる。	・学校説明会に参加した中学生や保護者の満足度 ・学校ホームページの更新申請数	・中学生の満足度 98.1%(98.1) 保護者の満足度 95.7%(97.8) ・学校ホームページの更新数 111 件(122) ・安心安全メール配信 119 件(135)	A	学校説明会の内容工夫や地域交流活動の定着など、魅力発信と連携強化に努め地域との関係性は深まったが、志望倍率の数値目標達成には至らなかった。次年度は広報手法の再検討や交流活動の質的向上を図り、本校の魅力をより志願者に届く形で発信し、倍率 1.00 倍の必達を目指す。
		地域交流を充実させ，共感力やコミュニケーション能力を高め，相互理解を深める。	・部活動などを中心に地域との連携を通じて，生徒が持続可能な社会の実現に向けた課題を理解し，自ら考え行動する力を育成する。	・地域交流の状況 ・10 月期中学３年生の本校志望倍率が 1.0 倍以上	・近隣公民館（生徒会のスマホ講座，美術部・書道部の作品展示，吹奏楽部の演奏）と交流した。 ・しらかば幼稚園（保育の授業実習，音楽選択者と吹奏楽部によるクリスマスコンサート）と交流した。 ・新開小学校と大和田小学校と交流した。		

学校関係者評価

実施日　令和８年１月３０日

学校関係者からの意見・要望・評価等

授業改善の取り組みが実を結び、生徒の学習意欲が目に見えて向上したことは大きな成果です。特に資格取得への挑戦は、生徒の自己肯定感を高める良い機会となったと感じます。次年度のタブレット活用については、単なる使用に留まらず、いかに思考の深化に繋げるかが鍵となります。教員間で活用事例を共有できるよう、実践的な校内研修の時間を十分に確保し、教員の指導技術の底上げに向けた体制の構築をしていただきたいです。

道徳教育推進モデル校としての活動を通じ、生徒の表情が明るくなり、自己肯定感が高まっている様子が地域にも伝わっています。公開授業や講演会が生徒にとって自分を見つめ直す貴重な機会となったことを高く評価します。次年度、生徒が企画・運営する機会を増やす際は、ぜひ地域行事やボランティア活動の運営にも生徒の力を貸していただきたい。高まった自己肯定感を、社会に貢献する自信へと昇華させるための地域連携の場をさらに広げていただくことを期待します。

地域行事への生徒派遣や丁寧な学校説明会の運営により、地域における本校への信頼度は確実に向上しました。一方で、この良好な関係性が中学生や保護者の志望意欲に結びついていない現状は真摯に受け止めるべき課題です。次年度は、単なる活動報告に留まらず、地域活動を通じて習得できる具体的なスキルや成長のメリットを、中学生の感性に響く表現で戦略的に発信することを強く要望します。